

# オープニングセッション

---



開会挨拶

佐藤元彦  
(愛知大学・学長)

趣旨説明

高橋五郎  
(愛知大学国際中国学研究センター・所長)



2008年12月5日(金)

○司会 皆さま、まもなく開会となります。今日はあいにくの雨のなか、お越しいただきまして心からお礼を申し上げます。

ただいまより、2008年度愛知大学国際中国学

研究センター（ICCS）国際シンポジウム「中国をめぐる開発と和諧社会」を開催いたします。

まず主催者を代表して、愛知大学学長、佐藤元彦よりご挨拶を申し上げます。

---

## 開会挨拶 佐藤元彦（愛知大学・学長）

---

皆さま、こんにちは。愛知大学学長の佐藤でございます。本日は、本学の国際中国学研究センター主催の国際シンポジウム、「中国をめぐる開発と和諧社会」を開催いたしましたところ、このように多くの方々にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。まずは本学を代表してお礼申し上げたいと思います。

さて、多くの方々には既にご存じかと思いますが、本学の国際中国学研究センターは、2002年に文部科学省の「21世紀COEプログラム」に採択をされました。それ以来5年間、文部科学省から補助金をいただいて展開をしてきました。補助が終わってからも、国際シンポジウムをはじめとして、さまざまな事業を展開しております。本学における中国研究、あるいは教育の1つの大きな核となっております。

とりわけ研究という点では、このような国際シンポジウムをはじめとする研究会の形式をとった取り組みが注目される場所ですが、国際中国学研究センターにおいては、教育事業にも触れないわけにはまいりません。

具体的に申し上げますと、2004年から博士の二重学位制度（デュアルディグリー・プログラム）を実施しております。中国の北京にあります中国人民大学、および天津にあります南開大学とテレビ会議システムを通じて授業を行い、本学とあわせて博士号を付与するというプログラムが展開されています。毎年、十数名の二重学位の学生を輩出していることは、この間の国際中国学研究センターの実績として忘れてはならないものだと思います。

あわせて、博士課程の学生あるいはポスト・ドクターを念頭に置きながら、若手の研究者の育成

にも力を入れています。日本人で他大学に就職する、あるいは中国人で母国である中国で教員になる、このようなケースは珍しいことではありません。若手研究者の育成についても着実に実績を残しています。そのような若手の研究者が、次の国際中国学研究の担い手となりつつあります。南京大学との国際連携事業もその一例ではないかと思えます。

さて、この3日間にわたる国際シンポジウムのテーマは、「和諧社会」に焦点をあてたものです。私はこの分野の専門家ではありませんので、にわかには勉強したところで理解している範囲で少し申し述べます。

「和諧」の「和」とは、和睦と理解できるということのようです。それから「諧」は、調和あるいは協調というかたちで理解できると聞いております。従いまして和諧社会は、例えば経済的格差の是正、都市と農村との格差の是正、あるいは地域間格差の是正ということにとどまらず、いわば経済建設を優先してきた中国において、重点的に取り組まれてこなかった社会問題全般に対して、どのような解決策を打ち出していくのかという問題提起だと理解しています。

その意味では、国際中国学研究センターは、経済のみならず、政治、文化、環境、あるいは社会などについて、幅広い研究体制を整えてきました。まさに、その体制が取り組むべき時宜にかなったテーマであると思えます。

このようなかたちで、3日間、精力的に意見交換、討論が展開され、国際中国学センターにとって、さらなる発展のための機会となることを祈念しまして、ご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○司会 佐藤先生、ありがとうございました。

それでは、今回の国際シンポジウムの趣旨説明に移ります。なお、本日の司会は、愛知大学国際中国学研究センターの運営委員を務めております私、愛知大学経済学部の李春利 (LEE Chunli)

と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、国際中国学研究センター所長であり、現代中国学部教授の高橋五郎より、シンポジウムの趣旨説明をいたします。高橋先生、よろしく願いいたします。

---

## 趣旨説明

### 高橋五郎 (愛知大学国際中国学研究センター・所長)

---

ただいまご紹介いただきました愛知大学国際中国学研究センターの高橋です。本センター主催の国際シンポジウム「中国をめぐる開発と和諧社会—和諧は可能か—」というテーマを取り上げました理由や意味などについて、主催者側を代表して説明いたします。

その前に、皆様には、ご多忙のところ、今日のシンポジウムに報告者あるいはコメンテーターとして内外からご参加いただき、忠心よりお礼を申し上げます。

特に、このシンポジウム参加のために海外からおいでくださったアメリカ中国経済学会前会長で、現在カリフォルニア州立大学ロングビーチ校のジャック・ハウ (Jack Hou) 教授、カナダのフレージャーバレー大学経済学部のルー・ディン (LU Ding) 教授、台湾政治大学の金観濤 (JIN Guantao) 教授、浙江大学の呉曉波 (WU Xiaobo) 教授、中国科学院の宋献方 (SONG Xianfang) 教授、中国青海省社会科学院の孫發平 (SUN Faping) 研究員、華東師範大学の許紀霖 (XU Jilin) 教授、南京大学の張玉林 (ZHANG Yulin) 教授、南京大学の朱安新 (ZHU Anxin) 講師、香港中文大学の劉青峰 (LIU Qingfeng) 教授、復旦大学の臧志軍 (ZANG Zhijun) 教授、南開大学の王処輝 (WANG Chuhui) 教授、中央民族大学の張海洋 (ZHANG Haiyang) 教授、中国芸術研究院の方李莉 (Fang Lili) 教授の皆さま方には、心よりお礼を申し上げます。

また、会場においでくださった多数の一般の方々にも厚く御礼申し上げます。

本日から3日間の予定でおこないますシンポジウムが、報告者、コメンテーター、会場の皆さま方にとり、今回のテーマを通して、現代中国に

ついでに理解をさらに深め、あるいは皆さまの研究課題に関する新しい刺激となるなど、実り多いものとなることを願っております。

ただいま佐藤学長より愛知大学国際中国学研究センターの概要について簡単な紹介がありましたが、せっかくの機会でもありますから、もう少し詳しく紹介したいと思います。

本センターは、2002年に設立されました。国内外の研究者のご参加をいただき、現代中国学に関する研究組織として、現代中国学研究方法に関する研究部会をはじめ5つの研究部会、すなわち中国政治、中国経済、中国文化、中国環境に関する研究部会を設置してきました。その研究成果の一部は、2008年春、それぞれの研究部会ごとの研究成果として5巻の著書を刊行しました。おかげさまで、現在のところ大変評判もよく順調に販売部数を伸ばしております。

また、私どもの研究活動の成果は、大学院教育にも反映するようになってきました。その1つは、愛知大学大学院中国研究科博士課程学生として、愛知大学および中国の南開大学と人民大学の2大学から入学試験に合格して入学した博士課程学生に対して、現代中国学に関する博士の学位取得のための教育をおこなう活動が第1点です。

第2点は、入学した博士課程学生を中心として、先ほどの内部研究組織においてリサーチアシスタントとして採用し、研究に携わることを通じて、研究者としての資質をうながす指導です。

そして第3点目は、他大学出身者を含めたポスト・ドクターのうち、将来性のある者を有給の研究員として採用し、先ほどの4つの研究組織の研究にかかわることを通じて、より高度な研究に従